

## 別表1 食品廃棄物・環境への負荷の自己チェックシート集

(食品関連事業者用)

### 1. 事業の規模

活動規模	単位	年	年	年
売上高	百万円			
従業員	人			
床面積	m <sup>2</sup>			
( )	( )			
( )	( )			
( )	( )			

## 2. 食品廃棄物等の量及び再生利用等の実施率の把握

年(      年   月 ~      年   月)

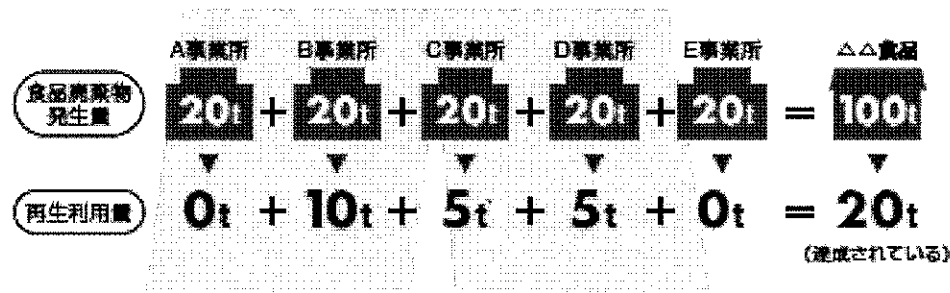
①

再生利用等目標計算 (20%以上)	①平成18年度 発生抑制量	①発生抑制の効果として減少した食品廃棄物等の量	
	②平成18年度 再生利用量	②再生利用過程に投入された食品循環資源の量	
	③平成18年度 減少量	③減量の効果として減少した食品廃棄物等の量	
	④平成18年度 発生量	④平成18年度に実際に発生した食品廃棄物等の量	
		再生利用等の実施率 計算式 $\frac{①+②+③}{①+④}$	

### 【食品廃棄物とは】

食品の製造や調理過程で生じる動植物性残さ、食品の流通過程や消費段階で生じる売れ残りや食べ残し等を言います。また、食品リサイクル法では、食品廃棄物のうち肥料、飼料等に有効利用されるものを食品循環資源と呼ぶこととしています。

### 【食品廃棄物の発生量の把握例】



また、発生抑制量については、

- 法が施行された13年度との比較
- 発生量が明らかな他の年度との比較
- 一般的な方法と自社独自の方法との比較等により把握して下さい。

◆記入に当たっての留意点

- 一般廃棄物のうち「厨芥ごみ」については①表に含めて下さい。
- 産業廃棄物のうち「動植物性残さ」についても①表に含めて下さい。

なお、動植物性残さの事例としては次のようなものを指します。

①動物性残さ

魚・獣の骨、皮、内臓等のあら、ポイルかす、うらごしかす、缶づめ、瓶づめ不良品、乳製品精製残さ、卵から、貝がら、羽毛等

②植物性残さ

ソースかす、しょうゆかす、こうじかす、酒かす、ビールかす、あめかす、海苔かす、でんぷんかす、豆腐かす、あんかす、茶かす、米・麦粉、大豆かす、果実の皮・種子、野菜くず、薬草かす、油かす等

### 3. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）

		単位	年	年
【② 廃棄物等総排出量】	食品廃棄物等の発生抑制	t		
	食品廃棄物等の再生利用	t		
	食品廃棄物等の減量	t		
	食品廃棄物等の発生	t		
	食品廃棄物等の再生利用実施率	%		
	再使用	t		
	食品廃棄物以外の再生利用	t		
	熱回収	t		
	単純焼却	t		
	その他	t		
	【③ 温室効果ガス排出量】	【二酸化炭素】	Kg-CO <sub>2</sub> t	
		Kg-CO <sub>2</sub> t		
【④ 総排水量】	公共用水域	m <sup>3</sup>		
	下水道	m <sup>3</sup>		
	BOD	g <sup>3</sup>		
⑤ 総エネルギー投入量	購入電力	MJ		
	化石燃料	MJ		
	新エネルギー	MJ		
	その他	MJ		
⑥ 総物質投入量	資源投入量	t		
	循環資源投入量	t		
⑦ 水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>		
	工業用水	m <sup>3</sup>		
	地下水	m <sup>3</sup>		
⑧ 廃棄物最終処分量	最終処分量	t		

○【 】で囲んだ項目が必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には「水資源投入量」が把握必須項目となります。

○各指標の値について、食品廃棄物等に関するデータは前項の集計結果を、それ以外の値については次頁以降の集計結果を記入して下さい。

【参考資料】各指標作成のための付属表

②&⑧ 廃棄物等総排出量及び廃棄物最終処分量

年(      年      月 ~      年      月)

			循環資源量(t)		廃棄物量(t)		廃棄物最終処分量(t)	合計(t)
			再使用	再生利用	熱回収	単純焼却		
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(C)	紙類	白上質紙					
			新聞紙					
			段ボール					
			その他の紙					
		かん						
		ビン						
		ペットボトル						
		紙パック						
		発泡スチロール等						
		プラスチックごみ						
		粗大ごみ						
		その他可燃ごみ						
		その他不燃ごみ						
		小計						
	産業廃棄物(D)	汚泥						
		金属くず						
		廃プラ						
		その他						
		小計						
	合計							

○網掛けの項目が「取りまとめ表」にある項目になっています。

③ 温室効果ガス排出量（必須項目である二酸化炭素排出量のみ掲載）

年( 年 月 ~ 年 月)

		単位	合計(年)			排出係数 (B)	単位発熱量 (C)	
			消費量 (A)	排出量 (kg-CO <sub>2</sub> ) (A×B) or (A×B×C)	割合			
二 酸 化 炭 素	エネルギー消費	購入電力	kWh			0.391 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)		
		化石燃料	灯油	L			0.0185 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	36.8 (MJ/l)
			重油	L			0.0189 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	39.1 (MJ/l)
			都市ガス	Nm <sup>3</sup>			0.0138 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	41.1 (MJ/Nm <sup>3</sup> )
			液化天然ガス(LNG)	kg			0.0135 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	54.5 (MJ/kg)
			液化石油ガス(LPG)	kg			0.0163 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	50.2 (MJ/kg)
			ガソリン	L			0.0183 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	34.6 (MJ/l)
			軽油	L			0.0188 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	38.2 (MJ/l)
		化石燃料合計						
		その他	熱供給	MJ			0.058 (kg-CO <sub>2</sub> /MJ)	
	その他合計							
	エネルギー消費合計							
	廃棄物焼却処理	一般廃棄物(廃プラのみ)	t			835 (kg-CO <sub>2</sub> /t)		
		産廃	廃油	t			896 (kg-CO <sub>2</sub> /t)	
			廃プラスチック	t			698 (kg-CO <sub>2</sub> /t)	
廃棄物焼却処理合計								
その他								
	その他合計							
二酸化炭素合計								

○網掛けの項目が「取りまとめ表」にある項目になっています。

○LPGの消費量を気体(m<sup>3</sup>)として把握している場合については 1m<sup>3</sup>=2.08kgとして換算して下さい。

○この表では、重油を全てA重油として算出しています。

○上記に該当しない項目で多量に投入しているエネルギーがある場合には、「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案 ver1.4) (環境省地球環境局) を参照して、排出量を算出して下さい。

④ 総排水量及び水質汚濁物質

④-1 総排水量

年(      年 月 ~      年 月)

		単位	合計(年)		
			実績(m <sup>3</sup> )	割合(%)	
総排水量 (m <sup>3</sup> )	公共用水域	河川	m <sup>3</sup>		
		湖沼	m <sup>3</sup>		
		海域	m <sup>3</sup>		
		各種水路	m <sup>3</sup>		
		公共用水域合計	m <sup>3</sup>		
	下水道	m <sup>3</sup>			
	合計				100.00

○網掛けの項目が「取りまとめ表」にある項目になっています。

○1L=0.001m<sup>3</sup>、 1m<sup>3</sup>=1000L

○事業所内で循環的に利用している量は対象外となります。

○再利用、処理等を行っていない雨水の排水については、対象外となります。

④-2 水質汚濁物質

年(      年 月 ~      年 月)

		合計(年)			
		平均濃度		排水量(m <sup>3</sup> )	排出量(g)
		値	単位		
水質汚濁物質	BOD				
	COD				

○網掛けの項目が「取りまとめ表」にある項目になっています。

○BOD、CODは、事業場からの排出について測定したそれぞれの濃度を記入して下さい。

○一定期間のその濃度の平均値に、その期間における総排水量を乗じて各々の負荷量を算出して下さい。

⑤ 総エネルギー投入量 (MJ)

年(      年      月      ~      年      月)

	単位	合計(年)			単位発熱量 (B)
		使用量・ 消費量 (A)	エネルギー量 (MJ) (A×B)	割合 (%)	
総 エ ネ ル ギ ー 投 入 量	購入電力	kWh			9.83 (MJ/kWh)
	灯油	L			36.8 (MJ/l)
	重油	L			39.1 (MJ/l)
	都市ガス	Nm <sup>3</sup>			41.1 (MJ/Nm <sup>3</sup> )
	液化天然ガス(LNG)	kg			54.5 (MJ/kg)
	液化石油ガス(LPG)	kg			50.2 (MJ/kg)
	ガソリン	L			34.6 (MJ/l)
	軽油	L			38.2 (MJ/l)
	化石燃料合計				
	新エネルギー合計				
	熱供給(蒸気)	MJ			
	総エネルギー合計			100.0	

- 網掛けの項目が「取りまとめ表」にある項目になっています。
- エネルギー量は、燃料使用量・消費量に単位発熱量を乗じて（燃料使用量・消費量×単位発熱量）求めて下さい。
- 上記に該当しない項目で多量に投入しているエネルギーがある場合には、単位発熱量を調べて、空欄を設けて記入して下さい。
- LPGの消費量を気体（m<sup>3</sup>）として把握している場合については 1m<sup>3</sup>=2.08kg として換算して下さい。
- この表では、重油を全てA重油として算出しています。
- 製品の製造において原材料等として投入される石油、石炭等は、総物質投入量として把握して下さい。



⑥ 総物質投入量

年( 年 月 ~ 年 月)

		合計(年)	
		実績(t)	割合(%)
総物質投入量(トン)	資源の種類		
		資源投入量合計	
	循環資源		
		循環資源量合計	
	その他		
		その他合計	
総物質投入量合計			100.00

- 資源の種類(循環資源も同様)
- ・金属(鉄、アルミ、銅、鉛等)
  - ・プラスチック(種類毎)
  - ・ゴム
  - ・ガラス
  - ・紙(用紙も含まれる)
  - ・農産物 等
- その他
- 重量で把握可能な、主要な部品、原材料、製品

- 網掛けの項目が「取りまとめ表」にある項目になっています。
- まずは主要な物質から把握して下さい。総物質投入量は、重量(単位はトン)で把握して下さい。
- 製品の製造において原材料等として投入される水や石油等は、総物質投入量として把握して下さい。
- 事業者内部で循環的に利用(再使用、再生利用、熱回収)している物質は対象外となります。

⑦ 水資源投入量

年( 年 月 ~ 年 月)

		単位	合計(年)	
			実績(m <sup>3</sup> )	割合(%)
水資源投入量(m <sup>3</sup> )	上水	m <sup>3</sup>		
	工業用水	m <sup>3</sup>		
	地下水	m <sup>3</sup>		
	海水、河川水	m <sup>3</sup>		
	雨水	m <sup>3</sup>		
	合計			

- 網掛けの項目が「取りまとめ表」にある項目になっています。
- 1L=0.001m<sup>3</sup>、 1m<sup>3</sup>=1000L
- 製品の製造において原材料等として投入される水は、総物質投入量として把握して下さい。
- 事業所内で循環的に利用している量は対象外となります。